

第 35 回日本中毒学会東日本地方会 開催にあたって



第 35 回日本中毒学会 東日本地方会 会長 小野寺 誠
福島県立医科大学 地域救急医療支援講座 教授

この度、第 35 回日本中毒学会東日本地方会を担当させていただきました。35 回目という節目を担当させていただくことに、この上ない名誉と考えておりましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延にともない、一昨年秋の幹事会にて 1 年間の延期という苦渋の決断をいたしました。その結果、新年のご挨拶を兼ねて多くの方々とお会いしていた本地方会が開催されなかった令和 3 年は、寂しい幕開けとなりました。

その後も福島市での現地開催を目標に、会場の確保や来福される方々への近隣温泉のご案内などを模索しておりましたが、令和 3 年 10 月に本地方会初の Web 開催といたしました。Web 開催により、これまで行われていた救急科領域講習会の許可がおりなかったことなど開催には多くの困難がありました。また、決断が遅かったことから会員の皆様にはご心配、ご迷惑をおかけしましたことをこの場でお詫び申し上げます。

一方で、今回の地方会には例年よりは少ないものの一般演題 17 題のご応募をいただきましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、教育講演として科学警察研究所の辻川健治先生より「日本と世界の薬物乱用」と題したご講演を、岩手医科大学高度救命救急センター薬物毒物検査部門の藤田友嗣先生より「界面活性剤による中毒に関して」、国立医薬品食品衛生研究所安全情報部の登田美桜先生より「植物性自然毒による食中毒について」と、多岐にわたるご講演をいただきます。私自身がお聞きしたい内容で、以前よりラブコールを送り続けておりました先生方ですので、皆様にもお届けできればと考えております。

今回の地方会は、初の Web 開催ということもあり、地方へ行ける楽しみを感じる事が難しいと思います。そこで、地方会ホームページより福島県観光物産館「ふくふくマルシェ」へリンクを貼りましたので、ご自由に福島県の物産品のお買い物をしていただき、地方会ならではの感覚をお感じになっていただきたいと存じます。

さいごになりましたが、本地方会が、わが国の中毒学の進歩に少しでも寄与できるよう、また皆様の日常診療や研究のヒントになることを切に願っております。